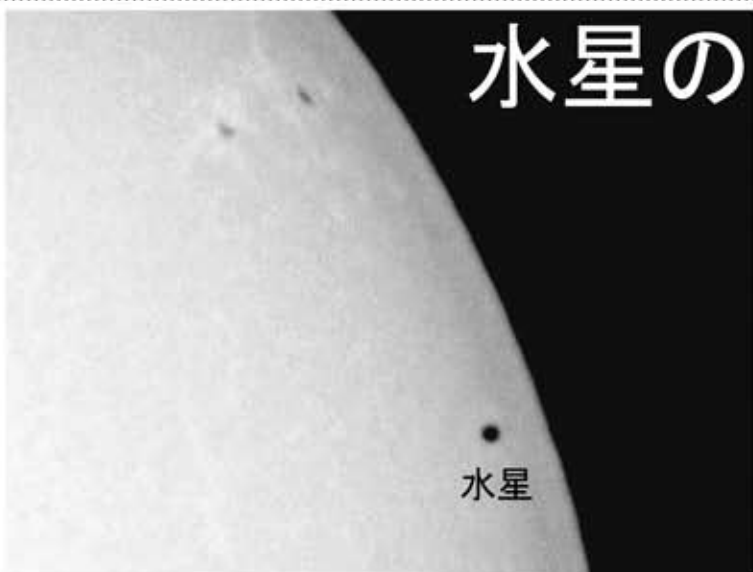




天文台だより

銀河の森天文台
2007 冬号
Vol. 34

水星の 日面通過を観測!!



水星

2006年11月9日 9:03 (JST)

30cm反射望遠鏡 減光フィルター CANON 10D トリミング

11月9日の日の出とともに、惑星の水星が太陽の前を通る「日面通過」という現象が起きました。この現象は、太陽、水星、地球が一直線に並ぶために起きる現象です。水星は太陽の1/200程度の大きさであるため、太陽の前では小さな黒い丸として観測されます。次回は、10年後の2016年5月9日に起きますが、日本で見られるのは、26年後の2032年11月13日です。

スワン彗星 (C/2006M4) を観測!



2006年10月29日 18:03 (JST)
115cm大型望遠鏡 6170mm F5.6
ISO800 露出:1分×10枚
CANON 5D トリミング

スワン彗星は今年6月に太陽観測探査機SOHOが撮影した画像から発見され、当初あまり明るくならないと予想されていましたが、10月下旬にアウトバーストを起こし4等級まで明るくなり、肉眼彗星として話題になりました。

館長コラム「太陽系外の惑星」

今年の天文学界は冥王星問題で賑やかでした。秋号で述べたように、国際天文学連合総会は惑星の定義(前号参照)を行って、太陽系の惑星は8個と決めました。太陽が惑星系を持つのは偶然ではないだろうから、太陽系以外にも惑星をもつ恒星があるだろうと考えられていましたが、前世紀の半ば頃から、そのような存在が見つかってきました。最近では観測精度の向上から数百個の恒星に惑星が存在することがわかってきました。遠方の恒星に付随する惑星を見つけるのですから、小さい惑星は検出できません。見つかっている惑星の質量(重さ)は木星の数倍以上です。これらの天体も歴史的に惑星(英語ではプラネット; プラネタリウムの語源です)と呼ばれてきました。太陽系外の惑星も太陽系の惑星と実体としては同じものと考えられています。しかし太陽系の惑星の定義をこれらの天体に適用するのには無理がありそうです。惑星の定義の問題はまだ尾を引くことでしよう。



(山下館長)

冬は土星が見頃です!



大型望遠鏡で土星を見ると、美しい輪がはっきりと確認できます。デジタルカメラやカメラ付き携帯でも簡単に土星を撮影できます。是非、ご来館下さい。

☆星のトリビア「宇宙の温度と年齢」

2006年度のノーベル物理学賞は、アメリカのJ.C.マザー氏とJ.F.スムート氏が受賞されました。受賞理由は、「宇宙マイクロ波背景放射の黒体放射との一致と非等方性の発見」です。宇宙マイクロ波背景放射は、1964年に天の川銀河系外のあらゆる方向からやってくる電波として観測・発見されました。発見したアメリカのA.A.ペンジアスとR.W.ウィルソンの2人は、1978年ノーベル物理学賞を受賞しています。実はこの宇宙マイクロ波背景放射こそ宇宙の温度なのです。この放射の温度は、2.7K(ケルビン:絶対温度)、摂氏でいうと-270.4℃になります。ところで、この背景放射は宇宙の始まりに起きた爆発(ビックバン)のなごりであることがわかっています。現在の背景放射の温度から宇宙の年齢は、137億歳と計算されています。(村)

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:55	16:02	11.5	13:18	4:43
1月 15日	6:52	16:16	25.5	3:21	12:06
2月 1日	6:39	16:38	13.0	15:16	6:22
2月 15日	6:22	16:57	27.0	5:01	13:41
3月 1日	6:00	17:15	11.4	14:15	4:56
3月 15日	5:36	17:33	25.4	3:34	12:31

天文行事&暦

1月

- 12/20-1/14 町民無料観望会
- 12/30-1/5 天文台休館日
- 3 ○満月
- 4 しぶんき座流星群が極大
(AM9時 最大30個/時)
- 6 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 19 ●新月
- 20 大寒(24節気:太陽黄経300°)

2月

- 2 ○満月
- 4 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 8 水星が東方最大離角
(光度:-0.3等, 離角:18° 08')
- 10、11 プラネタリウム特別公開
「オーロラってなんだろう？」
「スターライトキャラバン」
- 18 ●新月
- 19 雨水(24節気:太陽黄経330°)

3月

- 4 ○満月
- 6 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 7-18 土星観望会
- 19 ●新月
- 21-31 町民無料観望会
- 21 春分(24節気:太陽黄経0°)
- 22 水星が西方最大離角
(光度:-0.6等, 離角:27° 32')

冬のイベント情報 !!

☆プラネタリウム特別公開

小中学校への出前授業で使用している4mエアドームでのプラネタリウムコンテンツを特別公開します。

「オーロラってなんだろう？」

開催日時: 2月10日(土)

内容: オーロラの不思議を学習・体験します。
上映: 午後6時、午後7時の2回(1回40分程度)
定員: 各回20名(整理券配布)(入館料のみ)

「スターライトキャラバン」

開催日時: 2月11日(日)

内容: この時季の星座や宇宙について学習・体験します。
上映: 午後6時、午後7時の2回(1回40分程度)
定員: 各回25名(整理券配布)(入館料のみ)

「天文台あれこれ」- 博物館実習を終えて -

博物館実習生として、銀河の森天文台にお世話になりました。満天の星が見たい！とやって来た陸別でしたが、残念ながら5日間の実習中、実現できたのは1回だけでした。色の濃いスタッフの方々から星についての話をされる時、生き生きしてこの仕事が楽しい、この仕事が好きとおっしゃっている姿がとても印象的でした。そして、望遠鏡をのぞいているとどこからか聞こえる何かが鳴く声…陸別もとても印象的な町です。星の好きな私には大型望遠鏡を備え、晴天率も高く、360度星を見渡すことのできる陸別がとても贅沢な町に見えます。実習で作った天文台のポスターは実際に貼られるそうです。満天の星を見に、銀河の森天文台へまた来たいと思っています。(工学院大学4年 和田佳子)



☆土星観望会

この時期、土星が見頃を迎えます。大型望遠鏡で見る土星の輪は大変美しいものです。

開催日時: 3月7日(水)~18日(日)

説明会: 午後7時から(土曜・日曜のみ)

☆町民無料観望会

12月20日(水)~1月14日(日)及び3月21日(水)~3月31日(土)の期間、町民の皆さんへ天文台の無料開放を行います。(但し月曜・火曜、12/30~1/5は休館日です。)団体、サークル活動の一環としての来館も是非どうぞ。

「天文茶話」- 世界観 -

この頃テレビのニュースを見るといじめなどによる子供たちの自殺の話題が多く目にとまります。いじめがあること、いじめを苦にして死を選んでしまう子がいることは、胸が傷み残念でなりません。いじめにはさまざまな問題がからんでいると思いますが、その要因のひとつに今の子供たちの世界観があまりにも狭いものになっていることがあげられるのではないのでしょうか。この宇宙には無限という言葉に等しいほどたくさんの星があります。星や宇宙の世界を知り、広い世界観を持つことで、日頃の生活もまた違ったモノの見方、考え方ができるようになるのではないのでしょうか。夜空を見上げることで今の子供たちがもっと心のゆとりや豊かさを持ってもらえたらと思います。(寛)

天文台からのお知らせ

☆ 12月30日(土)~1月5日(金)の期間は、天文台休館日となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp